



大阪公立大学共同出版会

No.31

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目 次

- ・特別寄稿 出版とメディア
大阪府立大学 理事長・学長 辻 洋 1
- ・第10回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告
中村 治 2
- ・特集 OMUP創立15年・NPO化10年特別インタビュー
OMUP出版活動への貢献人、群像 2

- ・自著を語る (15)
『中小企業を百年企業にする社長の道しるべ』
さかい企業家応援団理事・税理士 忠岡 博 5
- ・新刊書の紹介 6
- ・大阪公立大学共同出版会事務局より 6
- ・編集後記 6

特別寄稿

大阪府立大学 理事長・学長 辻 洋



3年前、琵琶湖のある城跡（観音寺城）でのろし（狼煙）をあげている場に出くわした。琵琶湖一周のろし駅伝というらしい。担当者がのろしをあげたのち、ポケットから携帯電話を出して「のろしをあげたけど見えますか？」と連絡をしている。目の前にいる人に情報を伝達するのではなくて、離れた人に一刻も早く情報を伝達するための手段がそこにある。



安土町石寺 のろしの会
観音寺城にて

出版とメディア

か？我々人間は、のろしにせよ、壁画にせよ、媒体（メディア）を介して、情報を交換することができる。下等動物にはメディアを使えるものはいない。授業中に「メディアを使えるのは人間の特権だ」と言った時に、ある学生が「犬はメディアをもっています。電信柱です」と言ったのは面白かったが、哺乳類でもメディアを使いこなせる動物はごくわずかであろう。

永続性と可搬性を考慮した素晴らしいメディアは紙であろう。耐久性にしても重量にしても折りたたむことができるということにしても素晴らしい発明だ。紙が発明された直後の書物は巻紙に書かれたという。巻紙では最初から読むことが大原則で途中から読むことには向かない。さらに、巻紙だと一か所ミスがあると修正が大変である。ある人がページという考え方を発明し、編集（挿入、削除、差換え）が可能となつた。ページが存在することにより本ができ、その本の構成要素として目次や索引ができた。目次や索引は、本を順番に読むだけではなく、自分の関心にジャンプして読むことを可能にした。

自分の専門の情報科学分野では、紙をヒントにした電子文書、そして索引を用いたネット検索などの技術が生まれた。スクリーン上で自由にジャンプして情報空間を自由に移動することができる。電子文書に個人的にコメントをつけたり、付箋をつける技術も開発されたりしている。今後もいろいろな技術やアイデアがでてくるだろう。

それでも紙による出版というのは大切だ。なぜだろうか？そこには、自分の考えや夢を知らせたい、広めたいという人と、人の考えや夢から学びたいという人がいるからであろう。それらの人は同じ時代を生きるとは限らず、別の時代の人を想定しているからだ。俳句や和歌もある。紀行も小説もある。幼児向けもあれば老人向けもある。それぞれ分野を得意とした出版社がある。

我々研究者にとって、専門図書を出版しやすい環境があるということは素晴らしいことだ。多くの先輩がご苦労されてその環境を守って来てくださっている。大阪公立大学共同出版会の発展に期待したい。

第10回NPO法人大阪公立大学共同出版会総会報告

常務理事 中村 治

去る6月13日(土)午前10時より11時まで大阪府立大学A14号棟2階会議室において、第10回NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)の総会が開催された。総会成立の確認後、足立泰二理事長を議長に選出し、さらに上田純一常務理事と中村治常務理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。

第1号議案「平成26年度事業報告」では、同年度に18点の出版を行ったこと、学術研究の成果を一般市民にもわかりやすく提供する「OMUPブックレットシリーズ」の刊行に力を入れたこと、出版目録、「読ン得本々」などを制作したことなどが報告され、満場一致で承認された。

第2号議案「平成26年度事業決算」は、表に示す通りである。監事より「適法かつ正確である」と署名捺印をいただき、満場一致で承認された。

第3号議案「業務契約」については、電話秘書業務の委託契約、杉本公認会計士事務所との顧問契約、ホームページの維持・管理契約、事務局業務の契約、責任編集業務の委託契約のそれぞれについて、満場一致で承認された。

第4号議案「平成27年度事業計画」については、受託出版事業、出版物の受託販売事業、OMUPブックフェアの開催、出版目録の作成と配布、ニュースレターの発行(年間2回)、ホームページの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することが、満場一致で承認された。

第5号議案「平成27年度事業予算」については、表に示すような予算が提案され、満場一致で承認された。

以上すべての議案が満場一致で承認され、議長の足立泰二理事長が閉会を宣言して終了した。

H26年度決算書及びH27年度予算書

(単位:円)

科 目	H26決算額	H27予算額	
事業収入	12,367,926	13,750,000	
書籍売上	2,604,001	2,900,000	
出版収入	著者負担 大学負担・ ク出版助成等	5,146,827 4,503,498 113,600 0 181,881 286 181,595	5,600,000 5,200,000 0 50,000 50,250 250 50,000
寄付金収入			
入会金収入			
その他の収入			
受取利息			
雑収入			
当期収入合計	12,549,807	13,800,250	
売上原価	7,816,084	8,616,536	
期首商品棚卸	2,594,517	2,966,536	
製作費	6,914,742	7,400,000	
運送・発送費	179,813	250,000	
編集デザイン料	1,093,548	1,200,000	
期末商品棚卸	2,966,536	3,200,000	
管理費	5,137,460	5,076,310	
雑給	2,856,346	2,850,000	
福利厚生費	7,552	10,000	
業務委託費	694,800	650,000	
旅費交通費	529,340	500,000	
通信費	88,242	80,000	
会議費	152,131	100,000	
修繕費	18,589	10,000	
水道光熱費	22,030	102,810	
著者精算	503,189	500,000	
消耗品費	3,353	3,000	
租税公課	1,650	2,000	
事務用品費	60,039	70,000	
広告宣伝	156,720	150,000	
支払手数料	32,479	35,000	
新聞図書費	0	2,500	
諸会費	11,000	11,000	
法人税等	70,055	70,000	
当期支出合計	13,023,599	13,762,846	
当期収支差額	-473,792	37,404	
前期繰越収支差額	4,243,780	3,769,988	
次期繰越収支差額	3,769,988	3,807,392	

特集 OMUP創立15年・NPO化10年特別インタビュー

OMUP出版活動への貢献人、群像

インタビュアー 理事長 足立 泰二

大阪公立大学共同出版会(略称OMUP)は1999からの準備期間を経過した後、ニュー・ミレニアムの幕開けと共に2001年、当初は任意団体としてスタートしました。幸い、2006年には大阪府のNPO(特定非営利活動法人)に承認されることになり、全国的にも注目される「学術・啓蒙出版社」として展開してきました。書籍出版も年々増加傾向にあり、これもひとえに会員の皆様のお力添えの賜物であります。過去を振り返り、現実を見定め、更なる発展を希求して、この節目の機会に、これまで著者、編者としてご貢献いただいた皆様方から、ご意見を拝聴することにして、OMUPを支えていただいた皆様と、切磋琢磨できる愉悦を共有したいものと考えました。これまでの「OMUPニュースレター」の一部、「自著を語る」リレートーク(OMUPホームページに搭載)を合わせお読みいただけると幸いです。また機会があればOMUP主催の「出版の歓びを語る会」を持ちたいものです。

なお、インタビューは初版の年代順に、編・著者(敬称略)の当時及び現在の所属、近影と書名、発行年記載、①発行に至った経緯、②発行後の反響、成果、③今後の展望、④出版会OMUPに望むこと、などについてお尋ねしたものである。

紙面の都合でかなりの割愛をしたことをインタビューに応じていただいた先生方にお詫びする次第です。

今回のインタビューを終えて、私自身書籍出版のモティベーションを一層強く喚起させられました。



村田 京子

(当時大阪女子大学、現在大阪府立大学人間社会学研究科教授)

『Les métamorphoses du pacte diabolique dans l'œuvre de Balzac』 2003. 10

①：2002年にバルザックに関する博士論文をパリ第7大学ニコル・モゼ教授の下でまとめ、同大学で文学博士号をとりました。モゼ教授にその論文を是非、本として出版するよう勧められ、ヨーロッパでも流通するように「当時はまだ、インターネットによる販売が今ほど発達していなかったため」、フランスの老舗学術出版社クリンシック社(Klincksieck)を紹介いただきました。帰国後、当時大阪女子大学の先生方から大阪公立大学共同出版会の話をうかがい、日仏共同出版・

販売の体制を申し出た次第です。他社からも見積もりを取りましたが、OMUPが安くて、製本の仕様にも特別の配慮をいただきました。さらに、OMUP事務局の協力のもと、科研費「学術成果公開促進費：学術図書」を獲得し、本書の出版費用に充てることができました。

②：何度かOMUPニュースレターにも書評を掲載いただきましたように、複数のフランスの学術誌に書評が載り、フランスで高い評価を受けました。表紙、紙質なども素晴らしい、フランス人研究者からは「美しい本に感動した」という感想をもらいました。また、私自身のその後の仏書出版 *Les héritages de George Sand aux XX^e et XXI^e siècles*（共著；慶應大学出版会、2006年）のモティベーション高揚へと繋がりました。和書としても『娼婦の肖像 —ロマン主義的クルチザンヌの系譜』（新評論、2006年）『女がペンを執る時 —19世紀フランス・女性職業作家の誕生』（新評論、2011年）、『ロマン主義文学と絵画 —「文学的画家」たちの挑戦』（新評論、2015年）を出版いたしました。最近では芸術、とくに絵画の中の女性像（ラファエロの聖母像など）が文学作品の中でどのような比喩として使われているのか、ジェンダー的な観点から検証する研究を進めているところで、その研究成果の一部をまとめたのが今年出版した上記の著書です。

④：私はフランス語の語学教育で、長年、独自に開発したシャンソン教材を使ってきました。昨年、その成果をシャンソン研究会で発表したところ、多くの先生方から副読本として使いたいので是非、本にまとめて欲しいという要望がありました。ただ、教材とするシャンソンをCDに収めるためには著作権の問題が発生するため、果たして手頃な価格で本の販売ができるのか、懸念していたところです。そのあたり、OMUPにお調べいただき、可能ならばまた出版をお願いしたいと思っております。また、文系では学位論文取得後の単著での出版を率先して大学出版会が担うべきだと思います。欧米では大学出版会による本の出版は執筆者にとってステータス・シンボルであり、日本においてもこうした出版がますます盛んになることを願っています。同時に出版助成に関して大学執行部あるいは事務当局への働きかけもすべきだと思います。最後に、ジュンク堂のような大きな書店にOMUPの本が並び、多くの人の目に触れる機会があればいいと思っています。



中井 孝章
(大阪市立大学大学院生活科学研究科教授)
『OMUPブックレットNo.3 食育が子供を救う』
(共著) 2005. 8
ブックレットとしてその他5点
『空間論的転回序説』2014. 1
『教育臨床学のシステム論的転回』2014. 5

①：出版のタイプには二つあると考えます。一つ目は地道な研究から論文をまとめて本にするタイプと、二つ目は例えば乳児院や学校など実践の現場へ出て行き、現場で見聞してきたものを分析して、現場や関連機関へと発信していくタイプです。一般的の研究者は積み上げ方式だと思います。私はむしろ現場で問題になっていることを調査・分析して改善するために本を発信媒体とします。大事にしていることは現場志向です。ただ、現場に行っても何も見せてくれませんので、どのような観点で見るかは基礎研究が役に立ちます。科研費などの予算をたくさんもらえたことで、アンケート調査や

フィールド調査ができましたので、幸いなことにいろいろな研究ができたな、と感じています。

②：本を出版することにより、現場や講演などを通じて多くの出会いがございました。いろいろな職業の方との出会いがあり、そういう意味では他分野の皆さまとの交流が楽しいです。余談ですが、OMUPからも多く出版させていただきましたが、執筆数が60冊を超えることになり、現代日本執筆者大事典（第5期）に載せていただくことになりました。おかげさまでこの10年間は充実したものとなりました。

③：まだネタはございます。実はある出版社からブログを出すことになりました。「思考空間」というタイトルで、短文を書いて自分の問題意識を掘り起こそうと思っています。漠然としていますが、今まで行ってきたことを再考して発信していきたいと考えています。OMUPから出版した『空間論的転回序説』が私にとっては新たな出発点となります。「ハードウエア・ソフトウエア・ヒューマンウエア」という3つのレイヤーはいろいろな分野にあてはまると考えています。自分の新たな軸ができましたので、それをベースにさまざまな領域、例えば学校、家庭、心理療法・精神療法の世界等に応用していきたいと考えています。

④：今、絶版書や品切れ本がアマゾンで古本として高騰しています。出版社にお願いしたいのは、出版する以上、10年くらいは在庫として置いていただきたいということです。商業的な問題や保管するキャパシティの問題があるかとは思いますが、是非、ご検討をお願いいたします。



沼田 英治

(当時大阪市立大学理学研究科教授、現在京都大学大学院理学部教授)
『マゴットセラピー』(訳) 2006. 11
『ブックレットNo. 25 生きものなんでも相談』
(編著) 2009. 5

①：『マゴットセラピー ウジを使った創傷治療』当時岡山大学の心臓血管外科医であった三井秀也先生が、患者さんへの説明のための本を作りたいということから始まりました。日本では毎年1万人もの患者さんが足の切断を余儀なくされています。それは糖尿病などで抗生素が効かなくなつたため、できてしまった足の傷が治らないからです。足を切断したら元気になられるかというと、そうでもなく、生きる気を失う、寝たきりになってしまうなどという結果になってしまることが多く、三井先生は大変心を痛めておられました。しかし、ハエの幼虫、ウジを使って足を切断することなく傷を治すことができるという治療法が中世以前からありました。三井先生はこの忘れ去られていたウジを使った治療法、マゴットセラピーを日本で初めて導入され、そこでハエの研究をしていた私との交流が生まれたのです。マゴットセラピーに関しては英語とドイツ語でかかれた本しかなかったので、それを翻訳しましたところ、患者さんがマゴットセラピーを受ける決心をする際に役に立っていると聞いています。また、純粹科学の立場から見てもなぜこの方法が功を奏すのか大変おもしろいと感じています。

『生きものなんでも相談』のほうは、日本動物学会の近畿支部公開講演会で、高校生を含む一般の方から質問を受け付け、それに対して公開講演の演者の方や支部委員がお答えしていました。なかなか気の利いたやりとりもあり、そのままにしてお

くのはもったいないと考えて、紙媒体にして、高校生レベルを対象に、一問一答式のものとしました。一過性になってしまいがちな講演会での質疑を、いつでも手にとって読み返すことができる本にできたことはよかったですと認識しています。このように、大学と博物館や動物園などが連携して市民のみなさんに情報発信してゆく活動も大切と考えています。

④：教科書の翻訳はされないのでしょうか。よい教科書は英語で書かれたものが多いのですが、これらは学部学生には高いハードルになります。翻訳物は値段が高くなりがちですが、よい教科書の日本語版を出すことを大学出版会に目指していただきたいです。あとこれは判断が難しいのですが、出版の内容によっては印刷製作費を約子定規にしないようにするのも必要かと思います。社会的に価値が高く売れそだだと判断した場合に出版しやすいようにするなど工夫されても良いかと思います。

平澤 栄次 (当時大阪市立大学理学部、現在同名誉教授)

『ブックレットNo.10 満月が大きく見える』
2006.11
『生物学実験への招待
大阪市立大学基礎生物学実験テキスト』
(編著) 2014.3

①：ブックレットNo. 10で『満月が大きく見える 一体内時計が発振する暮らしのリズム』は、研究していた植物の概日リズムを高校生にわかりやすく説明するため、手作りの冊子をオフセットで作り出前授業の際に配布していました。OMUPの後押しもいただいたので、その冊子を基にして書き加えたものです。

②：刊行後この本がビジネス系出版社の目にとまり、新たに書き下ろしたものが『体内時計を調節する技術』(新書)などです。これらの出版が契機となり講演の依頼も多く入るようになりました。また大学での新入生向けの講義のテキストにも使わせていただきました。

③：現在は砺波という田舎で、自宅を改造した喫茶店のマスターとしてカウンターに立つ日々です。お店は本や講演の原稿を作成する書斎でもあり、1日のうちの多くの時間をここで過ごしています。現在は体内時計との関係から認知症とその予防を研究対象にしています。いまも大学の図書館にネットを通してお店のPCと繋がり、認知症に関する論文などを見ることができますので、あまり大阪には行くことがありません。住民にとって認知症予防は大きな関心事です。講演依頼を受ける中で、いつかはこの内容でOMUPから本を出せればと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

④：今まで、貴出版は大学人の多様なニーズをくみ取って出版というかたちで世に多大な貢献されたこと、敬服いたしております。昨年の退職時の院生主催の講演会では「院生の皆さんでもOMUPからならみなさんの研究分野の本が出せますよ！」とお伝えしました。今後とも執筆者のニーズをくみ取る方針を堅持していただきたいと思いますが、あえて一言申し上げます。これからは一般読者のニーズも調査され、いやがる大学人のお尻を叩いて「売れそうな本」も出していただければと存じます。そのことで院生などの執筆者の自己負担分を軽減できればすばらしいですね。



河内 明夫

(当時大阪市立大学大学院理学研究科教授、現在同名誉教授)

『Knot Theory for Scientific Objects』
2007.1

『Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics』(共著) 2011.4
この本は第2版をSpringer Verlagと共同で刊行しました。

①：1980年代頃から結び目理論が取り上げられ徐々に拡大し、私が中心となって1990年に大阪で第一回目の国際会議を開き、若い人達のエネルギー結集のシンボルとして結び目理論の本をまとめました。それをその後1996年には少し付け加えて英語拡大版を出版し、当時の分担執筆者達はいずれも国際的な数学学者になるなど、国際的に高い評価を受けています。そのこともあって、大阪市立大学では結び目の数学関連で、21世紀COEプロジェクトに採択されました。その研究成果の発表の際、発足して間もないOMUPとのご縁があり、OCAMIシリーズを出版させて頂きました。第4号に相当する『Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics』はSpringerとの共同出版でもあり、現在でも人気のある本になっています。

②：本をまとめたという作業はとても大事なことだと考えています。数学の場合は積み上げ学問ですから、ある段階までをまとめ、次のステップへ進みます。土台が曖昧ですと次のステップへ進めません。書くことで客観視できます。まとめたら本を出すということは、数学では特に大事であると考えています。

③：インターネットと出版をどのように整合させるかということが、課題になるかと思っています。情報としてはインターネットですぐに得られる時代に、出版とは何かを考えます。本としてまとめた出版物に価値はあると思いますが、インターネットで欲しい部分を安価で閲覧できるということは、一つの方向として喜ばしいことです。出版社はディレンマがあるかとは思いますが。これからはインターネットとどのように付き合うかが課題でしょう。また、専門書についてはオンデマンドでの出版を考えれば、在庫が必要ないわけですし、理想的ですね。

④：OMUPでの出版は学術書ですから、インターネットとの付き合い方とオンデマンドでの出版でしょうね。また、アジアとの付き合いをどのように展開していくかが課題ではないでしょうか。インターネットは裾野が広いですから、国際的な連携を深めるべきでしょう。



高垣 由美

(当時大阪府立大学人間社会学部准教授、現在同教授)

『De la rhétorique contrastive à la linguistique textuelle : l'organisation textuelle du français et du japonais』
2011.1

①：私の場合は、すでにOMUPから出版の経験のある先生方から、非常に親切だったという評判を聞いたことから始まります。実際、その評判どおり、とても親切にしていたらしく、実績があったので安心して任せられたことに感謝しています。例えば、科研費は申請書の書き方や相見積もりなどすごく制約があるのであります。その制約にあうよ

う1から10まで良心的にしていただきました。そして何よりもフランスでの共同出版を快く引き受けてくださったこと、フランスで足がかりができたこと、普通の出版社では嫌がることを熱心にしてくださった、これが大変に有難かったです。

②：日本フランス語フランス学会の冊子に拙著の書評が掲載されたのですが、フランスとの共同出版は新しい試みであり、評価できるとありました。私の場合、校正は共同出版であるルーアン大学で、フランス人の校正者がしてくれたことに意義を感じています。科研費で出版すると定価が高めに設定になることもあります、飛ぶように売れているというわけではありません。しかしながら単著で本を出すことは、研究者にとって非常に重要で意義があると今も考えています。

④：先ほども申しましたとおり単著での出版は大事なことですので、博士号を取得した学生たちにOMUPの存在をもっと知らしめるようにしたら良いと思います。そういう人たちのシリーズと、別に中堅や大御所の先生方を対象としたまた別のシリーズを設けたら、より需要が高くなるのではないかと思います。



船越 克己
(大阪府立大学名誉教授)

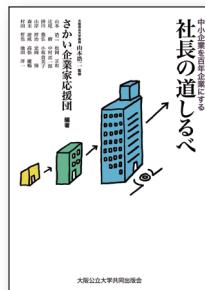
『ニーダーラインの光景』2012.2

①：『ニーダーラインの光景』翻訳のきっかけですが、フォルスターの旅行記の双璧と言われるもののが『世界周航記』と『ニーダーラインの光景』です。『世界周航記』はドイツ語版、英語版とも岩波書店から出版されていますが、『ニーダーラインの光景』は出ておりません。ですので、是非、自身の手で出版したいとの願いがありました。そのような思いで翻訳を始めました。また、知の巨人あるいは偉大なコスモポリタンであるフォルスターという人物には大きな魅力があります。フランス革命を最後まで支持したフォルスターはもっと評価されるべきですが、フォルスターの絵画論など多くの人に紹介したい、という思いもありました。さらに、ドイツ語学文学振興会の刊行助成をいただき本当に感謝しております。

②：実は、再版を出してほしいという要望もあります。拙訳には至らぬ点もあると思います。目下の課題は注・索引を含めて、納得のいくまで読み込むことです。心の片隅には、是非はともかくとして、より完全なものとして第2版を出したいとの夢のまた夢があります。『ニーダーラインの光景』の未完成の第3部を『イギリス芸術史』とともに翻訳したい、ゲオルグ・フォルスター研究を一冊にまとめたい等、目標はたくさんございます。将来にわたり、フォルスター研究を深めたいと思っています。

④：出版の多様性を汲み取っていくことでしょう。著者の出版への要望があれば、できる範囲で吸収できるような体制でサポートしていただきたいと思います。今まで通り大学の出版会として、関係者の知恵を絞りつつ、魅力的な出版を続けていただけたら幸いです。

自著を語る（15）



中小企業を百年企業にする
社長の道しるべ

さかい企業家応援団 編著
山本 浩二 監修

ISBN978-4-907209-40-7 C2034
A5判 並製本 258頁
定価：本体1,500円+税

私ども「さかい企業家応援団」は、大阪府立大学大学院経済学研究科教授の山本浩二先生を理事長とし、堺市の創業者支援施設である「さかい新事業創造センター」を拠点に活動しているNPO法人です。メンバーは税理士、中小企業診断士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、弁理士、弁護士その他各種の専門家によって構成されており、活動は「さかい新事業創造センター」に入居しているベンチャー企業への訪問支援を中心に、堺市内の中小企業への専門家派遣、企業研修等への講師派遣および「ゼロから始める創業勉強会」等の各種セミナーの開催をしています。

本書の出版企画は、もともと「ゼロから始める創業勉強会」のテキストを作ろうと考えたところから始まりました。というのも、創業間もない経営者やこれから創業しようとしている人たちを対象に開催しているこのセミナーで、今まででは、たとえば経理の方法を指導する場合、ある講師は「創業時から事業関連の支出と私的な支出をきっちりと区別する習慣を付けてください」と教え、別の講師は「始めはどんぶり勘定で良いので、まずは帳簿を付けてみるとから始めてください」と教えていたのです。たしかにどちらも一理あり、登る道が違うだけで最終的には同じ山頂を目指しているのですが、このような不統一があつては受講生は戸惑います。そこで、指導方針を統一し、同じ一本の道を登って山頂を目指せるテキストを作ろうと考えたのです。

しかし、この企画について議論を重ねていくうちに、何もテーマを「創業」だけにこだわらなくても、さらにもっと高い次の山を目指す、すなわち「百年企業」のような永続的企業であり続けるために日々努力され、頑張っておられる中小企業経営者の方々に対して確かな「道しるべ」となるよう、そのために私ども専門家の知識と知恵を総動員した中身の濃い書物にすべきだと考えるようになりました。また、「出版」という形態を探るのであれば、セミナーのテキストではなく、経営者が日々の仕事の合間に電車の中で読んだり、疲れた時に気軽に寝ころんで読んでもいいような「読み物」にすべきだと考えるようになりました。テキストの場合はセミナーで講義することが前提ですから、言葉で語り尽くせない部分を補う図表などが中心になりますが、「読み物」となると、図表も用いますが、文章でしっかりと内容を伝えることが中心になります。しかも、読者は一般的の会社経営者ですから、できるだけ平易な言葉で伝えなければなりません。執筆者一

同、そのことを念頭に置いて原稿を書き進めました。組み版も、会社経営者が読み慣れているビジネス書の体裁に倣って縦組みにしました。

そうして完成した本書は、意図したとおり「気軽に読めて中身も濃い」ものになっていると思います。内容は「新事業と起業についての道しるべ」「生産管理についての道しるべ」「人材活用についての道しるべ」「事業承継についての道しるべ」「税と税理士についての道しるべ」「中小企業を百年企業にする道しるべ」の6つの章から成っており、会社経営者が直面するであろうさまざまな場面について、事例も交えてそれぞれの専門家の立場から解説を行っています。編集を担当した私は「この事例は○○社に当てはまるなあ」と、本書の事例を、よく似た状況にある私自身の関与先の会社に当てはめてみて、その会社の社長が本書を手に取って喜んでいる笑顔を想像しながら編集させていただきました。

OMUPさんには、零細企業が中小企業へ、そして大企業へ、さらにグローバル企業へと成長していく有り様を絵にしたユニークな表紙を提案していただき、本を売るための貴重な助言や提案もいただきました。また、本文をさらに読みやすく修正していただきました。本当に感謝に堪えません。

私事になりますが、私は最近、自宅を新築しました。その際のハウスメーカーの担当者の言葉が印象に残っています。「家は、そこに住む人が家具を置いて、絵や写真を飾って、住む人のカラーになって初めて完成する」のだと。同様に本書も、これを読んだ中小企業経営者がここから経営のヒントを見つけ、実際の会社経営に生かして初めて本当の意味で完成するのだと思います。本書が、数多くの会社経営者に愛読され、実践の場で活用されることを願ってやみません。

(さかい企業家応援団理事・税理士 忠岡 博)

新刊書の紹介



OMUPブックレット No. 49
法社会学叙説
—法と社会についての「蜜」談—
和田 安弘 著
ISBN978-4-907209-33-9 C1336
A 5 判、104頁 定価：本体800円+税

OMUPブックレット No. 50
現代社会を生きるキーワード2 鈴木 利章 編
ISBN978-4-907209-34-6 C1336
A 5 判、82頁 定価：本体800円+税

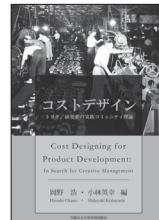
OMUPブックレット No. 51 URP「先端的都市研究」シリーズ1
市大都市研究の最前線—地域実践連携講座の試み
大阪市立大学都市研究プラザ 編
ISBN978-4-907209-35-3 C1336
A 5 判、102頁 定価：本体800円+税

URP「先端的都市研究」シリーズとして他4点



洛北修学院

中村 治 著
ISBN978-4-907209-41-4 C1039
A 4 判、並製本、58頁
定価：本体3,200円+税



コストデザイン トヨタ／研究者の実践コミュニティ理論

岡野 浩・小林 英幸 編
ISBN978-4-907209-32-2 C3034
A 5 判、並製本、262頁
定価：本体2,500円+税



生物学実験への招待 Bコース 大阪市立大学基礎生物学実験テキスト 2014(平成26)年度版

大阪市立大学理学部生物学科 編
ISBN978-4-907209-19-3 C3045
B 5 判、並・リング製本、132頁
定価：本体1,000円+税



MF Pungier 浅井美智子 猪俣紀子 著
ISBN978-4-907209-42-1 C0085
A 5 判、並・リング製本、136頁
定価：本体1,200円+税

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

(1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
(2) 会員の学術図書の刊行頒布
(3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
(4) その他前条の目的を達成するために必要な事業
などを行っているNPO法人です。参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
大阪府立大学中もずキャンパス内
NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局
電話：072-251-6533 フax: 072-254-9539
e-mail: omup@hs.osakafu-u.ac.jp
URL: http://www.omup.jp/
入会金：一口一円（終身会費）
振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

今年は弊会創立15周年、NPOになり10年目という節目の年です。これまでの経験を活かしつつ、時代のニーズにもこたえ、さらに大きく飛躍できるよう努力を重ねてまいります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

(児玉倫子)